

年頭のご挨拶

皆様明けましておめでとうございます。

旧年中は当社に対し格別のご高配を賜り誠にありがとうございました。本年も引き続きお引き立てのほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、その年頭において「今年こそ反転攻勢を」という意気込みを持ち、業界こぞって失地回復に努力を傾けた1年でありました。しかし結果的には目標とした回復軌道には程遠く、これまで数年間にわたる厳しい状況の蓄積の影響で業界関係者には将来に向けた深刻な判断をも余儀なくされた年となりました。

他方で本年1月からの商品先物取引法の本格施行、取引システムの統合、証拠金制度の変更等を控え、関係者におかれては厳しい状況下で新たな対応に追われたまさに「繁栄なき繁忙」であったものと拝察いたします。当社もスパン証拠金の導入により制度変更の一端を担う立場にあるものとして、この間の関係各位のご協力に対し改めて深く感謝申し上げますとともに、そのご労苦が本年において必ずや報われることを皆様とともに強く祈念する次第であります。

さて、前述したとおり新年早々より、商品先物取引法の施行等と軌を一にして証拠金制度の変更が行われ、スパン証拠金に基づく新制度がスタートしております。1年間という準備期間を通じて、当社といたしましてはシステム整備、制度・規則の改正、広報啓発の各面において社を挙げて準備作業に取り組んでまいりました。それが十分であったかどうかについてはご批判もあろうかと存じますが、言うまでもなくスパン証拠金の導入は投資家にとっての利便性、効率性、選択性の向上を目的とし、商品先物取引の活発化を図ることを目的とするものです。この意味と目的とを投資家の皆様に十分ご理解いただくことが当面の最重要課題と捉え、当社といたしましてもホームページの充実等を通じ最大の努力を傾注いたすこととしておりますので、関係各位の一層のご理解とご協力をここに改めてお願いする次第であります。

国際的に清算機関の健全性に対する関心が高まり、世界標準を指向したアプローチが強く求められている今日、証拠金制度以外にも、当社にとりまして経営・財務基盤の強化、リスク管理の高度化など様々な課題が山積しております。当社といたしましても中期経営計画等に基づきこれら諸課題に鋭意取り組むとともに、日常清算業務の的確な遂行に万全を尽くす所存でありますので、清算機関の果たすべき役割と機能について皆様の一層のご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

国内景気動向の先行きが楽観を許さず、また諸般の制度変更の影響が見通しにくい状

況ではあります、我が国商品先物市場は不滅であるとの信念を持って、皆様とともに新たな出発を期してまいりたいと存じます。

最後に、皆様方のご繁栄、ご健勝を心よりお祈り申し上げまして、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成 23 年 1 月

株式会社 日本商品清算機構

代表取締役社長 高橋 英樹